

2022年度 日本工学院専門学校											
C G 映像科											
美術基礎 2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	松永 治空			実務経験	有	職種	アーティスト				
担当教員紹介											
国内外で精力的にアーティスト活動を展開。先進的な芸術表現を追求。デッサンに加え、アートボードやイラストレーションの指導も行う。											
授業概要											
美術分野でのリベラルアーツを目指し、イラスト、デッサン、古典絵画、漫画、エンターテインメント分野での必要とされるデッサン力や基礎知識がどのように受け継がれてきているのかなどの汎用的な基礎を学ぶ											
到達目標											
以下、二つを習得する 1．偏見を無くし、歴史を理解し応用力を身につける 2．様々な美術工芸などの考え方を通し、エンターテインメント分野に生かす創造力を養う											
授業方法											
大講堂でのレクチャー及びアクティブラーニング											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な授業参加									
履修上の注意											
授業中の私語やスマホには厳しく対応する 理由のない遅刻・欠席は認めない 授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	アカデミズムとプラトンについて、美術分野での分解と統合の歴史について理解する										
第2回	アカデミズムと石膏デッサン、受験デッサンの歴史について理解する										
第3回	漫画と浮世絵の歴史										
第4回	共通前提について理解する										
第5回	西洋絵画とルブソワール・バンドデシネについて理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
CG映像科	
美術基礎2	
第6回	イマジナリーラインとライティング・コンポジションについて理解する
第7回	郊外授業：美術館見学①
第8回	郊外授業：美術館見学②
第9回	絵を言葉にして伝える（アクティブラーニング①）
第10回	絵を言葉にして伝える（アクティブラーニング②）
第11回	業界レクチャー①仕事として美術はどうかされるのか
第12回	コンセプトアートを理解する①
第13回	コンセプトアートを理解する②
第14回	ストーリーとプロット①
第15回	ストーリーとプロット②